



～社訓＊誠意～

## 社長室だより



2020年3月末号

2020年の春はオリンピックを目前にし卒業、入学、新生活のスタートも有り国中が興奮に満ちた日々を過ごすはずだった。それが今まで経験した事のない「コロナウイルス」と言う目に見えない災害に全世界が襲われてしまった。外国の事はさておき、国内のムードは目に見えない敵との戦いにどうして良いかわからず、奇行する人達にあおられてパニック状態である。こういう状況では人間の真価が問われる気がする。朝からドラックストアの前に並び余分な数まで購入する人、食材しかりである。そのおかげで我々の運ぶ物量がどんどん増え増便依頼が出る一方で配送先が自粛、キャンセルでいきなり休便にされたりと経営に大きな打撃を与えられた。便乗収益増の会社と倒産、廃業に追い込まれる会社もこれから出てくる。当社はくしくもプラマイ有り若干マイナスかな。でも現時点で感染者が出ないだけでもありがたい。東関東を襲って大パニックになった9年前の3・11に比べたら、外出自粛・衛生管理でしのげるのだから頑張らないと。実は先日、9年目を迎えた晩に私は浅はかな事をしてしまった。懇意にしている仙台の運送会社の方に「震災直後トラックのそばで寝泊まりして物流を守ったあの日々、電話しても繋がらずドキドキしていた事を今でも忘れません。でもきっと今も明日の配送の事で目一杯なんだろうなと思いつつ何となくメッセージしたくなりました。生きてなんぼなんですよ東京はコロナで転びそうです」とメールを送り、その返事はこうでした「そうですね～あれから9年、トイレットペーパー、ティッシュ色々有りましたが震災を振り返れば慌てませんよ!!物流も止めませんよ。あえて報道番組は見ていません。テレビ見たくないの、大震災の映像、映画はいいよ!

社員1名女川町集荷で流されて上がってないし、知り合い一杯亡くなったし。見れば辛くなるし思い出すし、遺体安置所まわりしたし。おわり」の返事を読んだとき自分の安っぽい感傷の行動が申し訳なくて、しばらく体が凍り付き涙を抑えられなかった。それでも彼は本当に毎日仙台から各地への物流を途切れさすことなく日々配車をこなし物流の効率化に向けて取引先と折衝している。私の尊敬すべき先輩だ。私の依頼を一度も断った事がない。気っぴもびかーだ。彼のように仕事が出来たら当社ももっと発展していたか!!現状に打ち勝つ信念を持ち、常に冷静に判断し行動をする。そして人としての道を外れることなく1日1日を大切に生きている事、活かされていることに感謝する事。その差が人生の差につながる。と心に刻んだ。改めて自己管理をしっかりして生きぬきましょうね♥



4月にお誕生日を迎える方



5 日本社東電便 大野英昭 7 日本社運行管理者 平野正勝 8 日本社東電便 岩間友守  
8 日本社大庄便 松井秀康 10 日本社ウイング便 柿沼浩司 17 日平塚菱華便 浅野太陽  
29 日平塚横低便 下田淳